



再出発「新生・ベテラン研修会」

会 長 藤 島 勝 雄

本協会は、「あくまでも親睦団体であって、会員相互の親睦をはかる」ことを目的に、「北海道スキー連盟基礎スキー技術委員会」の意向により昭和27年に創立された。

当時で言う“政・指分離”の考え方である。つまり、研修会・検定会等の道連（政）行事とは一線を画して、指導員会（指）は親睦に徹するということであり、このことは現在まで受け継がれ、「集い開催」「シュプール発刊」が活動の中心となっている。

しかし、昨今のスキー界の不況下にあってより幅広い活動が求められている中では、この“親睦”が足かせとなってきた。

一昨年、北海道スキー連盟の公益法人化移行に伴う改編・新体制の道連教育本部から、本協会に「スキー界の活性化のために協力してほしい」との要請があった。

本協会はこれを転機と考え、創立以来の“親睦”の枠に捉われずに、幅広い活動を展開していくこととした。

スキーヤーの高齢化が言われて久しい中、冷え込んでいるスキー場に多くのスキーヤーに足を運んでもらうためにはベテラン指導員の方々の力が必要と考え、男性60歳・女性50歳以上を対象として“トップデモの新しい技術に触れ”

“少人数で充実した研修と親睦”等の特色を持つ「ベテラン研修会」を教育本部と協力開催することにした。

4月8日からの、久しぶりのニセコでの研修会は、残念ながら予定していた参加人数に満たずこじんまりとしたものであったが、池田・江畑両デモの華麗な滑りと、的確且つ熱心な指導には感激させられた。

「トップデモによる講習は特に意義あるものでした。技術の意味合いを実際に目の前で見てくれるため非常に分かりやすく、このことが見事な滑りにつながっていくことがうなずけた感じです。今後とも、レベルの高い指導をしていただけることを望みます」

「79歳で功労指導員ですが、研修会はしばらく出ていなかった。ベテラン研修会ということで、今回で最後と思って参加したが、88歳89歳の先輩指導員の元気な滑りを見て自分はまだまだだと思った。来年もぜひ参加したい」

お二人の参加者の感想の中に、私どもが目指した研修会開催の意図が見られるのは嬉しいことである。

しかし、いくつかの問題点も見つかった。

最大の問題は、参加者の少なさである。

出された問題を改善して多くのベテラン指導員の方々が参加しやすくし、そして、参加者に高い評価が得られる研修会として来年度以降も開催したいと考えていますので、本協会の役員の方々は勿論、各加盟団体会員の方々も“私のための研修会”と認識していただき多数の参加を期待します。

また、これからも“親睦”に捉われず「スキー界の活性化」のために寄与できるような事業を展開していきたいと考えています。